

17 年度 Q1 決算説明会 質疑応答要約

Q) 通信・プリンティング機器の年間見通しの修正の背景を教えてください。

A) 現在までのところ、製品本体の販売が、グローバルで非常に堅調に推移している。

消耗品の売上については、セルインが少し想定より弱かったものの、セルアウトは順調だと聞いている。通期見通しの修正のポイントとしては、堅調な製品本体の見通しを中心に引き上げ、消耗品については少し保守的に見直した程度と考えてほしい。

Q) プリンティング市場の各地域の需要状況に変化はあるか？

A) ブラザーの主力であるモノクロレーザーのローエンドカテゴリについては、競合環境に大きな変化は見られず、シェアを維持・拡大させることができている。需要については、グローバルでの景気拡大の影響もあり、良くなっているように感じている。

Q) 産業機器は、年間の見通しを上方修正してはいるものの、下期はIT 関連顧客向けの売上が織り込んでいないということか？

A) IT 関連顧客向けの見通しについては、案件が大口ということもあり、受注が確定していないものは業績見通しに織り込んでいない。ただ、引き合いは継続してあると認識している。

なお、産業機器の業績が順調である背景としては、IT 向けの大口案件によるものだけでなく、これまで戦略的に取り組みを続けていた自動車関連向けが堅調に拡大していることも理由として挙げられる。

以上